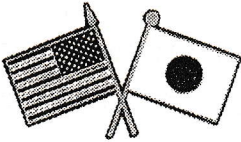


28 JUL 1998



第5号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒107-0052 港区赤坂8-4-17

赤坂郵便局私書箱 62号

編集：JAAGA 事務局

印刷：(財)防衛弘済会

第3回 総会・懇親会開催

—— 講演は杉山前統幕議長 ——

梅雨の中休み、去る6月17日午後3時から、発足以来2年を経たJAAGAの総会・懇親会が開催された。これまで、つばさ会における協会の位置づけは試行的なものであったが、先頃のつばさ会総会においてその附属組織として認知されてから初のJAAGA総会となった。席上鈴木会長が述べたとおり、相互理解も深まり、夢中の段階から手応えを感じ更に歩を進める段階に至ったといえることができる。

主要な議事としては一部掲載資料のとおり、前年度事業報告／決算報告及び10年度事業計画／年度予算のほか、規則の一部改正と役員選出であり、それぞれとどこおりなく議決された。昨年度は米空軍50周年記念に関するイベントへの参加や日米協同訓練に伴う航空自衛隊激励のほか米軍基地研修、退役・現役米空軍主要幹部による講演等について報告された。今年度目新しい内容としては日米の、いわゆる交換幹部に対する激励や紹介が盛られている。なお、協会の基盤作りに大いに御苦勞のあった石塚理事長はこの度の総会でその任を石川理事に申し送ることとなった。

規則改正の主要点は、JAAGAは、つばさ会の

附属組織となり、会員資格も航空自衛隊OBはすべて正会員とすることとなった。

また審議終了の後、

協会ロゴマークの図案入選者の紹介と表彰が行われ、提案したマークが協会シンボルの基調として最優秀に選ばれた臼井治夫氏に会長から記念の盾と賞金が贈られ、佳作に選ばれた石母田治、坂本祐信の両氏には、それぞれ金一封が贈られた。

総会に引き続き講演会では「日米協同の現状と見通し」と題し、杉山前議長がガイドラインや最近の我が国の防衛問題に関わる幅広いテーマについて語った。会員の認識を深めさせる説得力ある内容であった。

述べられた項目の要旨を抜粋すれば、次のようなものである。

◎国内事情や各種官庁組織など、複雑な問題はあ
ものの、国防問題に関する努力は着実に良い方向
へ向かっていると思われる。

◎新ガイドラインについては、評価できる点と、懸
念される点があり、

評価できる点は

- ・有事対処計画を国レベルまで格上げすることができ、他省庁との協力体制のもとで、法制面の整備に着手したこと、
- ・危機管理態勢の強化を図り、平時から有事までのグレー



Guest speaker Gen. (Ret)
Sugiyama former Chairman,
Joint Staff Council.



Reception

ゾーンの対応に対策を講じたこと等であるとし、懸念される点は

- ・細部まで詰めたが予期出来ぬ事態があるのが、有事の常であり、それへの対処が旨く出来るかどうか、
- ・ここまで進めてきた行き足を止めることのないように、じ後の作業を着々と進めていく必要がある。

等々であるとした。



Cerebrating speech by Col. Stevenson, Vice Commander 5th Air Force



Cerebrating speech by Mr. Kyuma Director General, Japan Defence Agency

◎TMDについて、大量破壊兵器の拡散と多様化が進んでいるのは事実であり、TBM対処を真面目に考えなければならないと認識している。

その際、宇宙の平和利用の問題がありこれの解決が第1に必要である。

◎情報本部や統幕の指揮組織が逐次改善されるが、平時有事を問わず統合の重要性が更に重視されつつある。



Cerebrating speech by Gen. Hiraoka Chief of Staff, JASDF



Kanpai / Adm. Natsukawa Chairman, Joint Staff Council

午後6時からの懇親会は、会員や現役幹部に加え防衛庁長官・統幕議長・航空幕僚長・第5空軍幹部、日米海軍友好協会代表、賛助会員等の参加を得、賑やかな懇親の場となった。また会員たる宮下善通寺市長も駆けつけてくれた。

3年目は勝負の時期即ち伝統の固まってゆく時期であるという会長挨拶に続き、第5空軍司令官（出張中につき代理の副司令官スティーブソン大佐）は、日米エアフォースの一層の連携を呼びかけると



Letter of appreciation to Ms. Maggy Surls

ともに、両者ともに国民の理解と支援の上に成り立つという原則に触れ、また彼の着任以前に知ったJAAGAの良き風評等を語った。補正予算案が可決されるや駆けつけた長官も力強く日米の絆を称え、丁重に激励と祝意を述べた。外国からの祝電は、エバハート前5空軍司令官（現副参謀総長）、ホーリー戦闘航空軍司令官、マイヤーズ太平洋空軍司令官、デービス元欧州空軍参謀長、ラーソン米空軍協力会長の諸氏からであった。

なおこの席で、協会の設立と運営に当たり長期間おしめない協力と調整に尽力してくれた第5空軍司令部の特別補佐官マギー・サールス女史に当協会会長から感謝状と記念品が贈られた。



Symbol mark selected. Award to winning worker Gen. (Ret.) Usui.

平成9年度事業報告書

第1. 事業実績等の概要

平成9年度は協会発足2年目であり、事業の展開については依然として手探りの状態であったため、年度計画の項目を厳選して手堅い実績主義を基本としつつも状況に応ずる積極・柔軟な対応を方針として臨んだ。

この結果、計画に掲げた全事業を達成するとともに、米空軍50周年の記念すべき年に相応しい活動成果を挙げることができた。

第2. 友好親善事業の実施状況

(1) 日米共同訓練における日米参加隊員の激励・慰問

a. C. Northの激励

9.7.18: 那覇(松村副会長)

9.11.14: 千歳(朝倉氏)、三沢(近藤氏)

10.1.30: 春日(中野氏)、築城(橋本氏)、新田原(江藤氏)

b. Keen Edgeの激励

10.2.28: 府中(長谷川副会長)

(2) 国際秩序維持等のために派遣された米軍将兵の激励・慰問

対象とする事態なし。

(3) 米軍基地等の研修

10.2.24-25: 三沢(米軍及び空自)、横田

参加者: 24名

(4) 米空軍要人等による講演

9.6.27: 講師: ベーカー准将(第18航空団司令)

参加者: 75名

9.9.1: 講師: マックピーク大将(前米空軍参謀総長)

参加者: 66名

(5) 在日米空軍50周年記念行事への協力

三沢: 米軍・空自隊員(同夫人)各1組を表彰

横田: 基地東地区に建設したモニュメントの一部支援

嘉手納: 記念行事として行われたピース・パークの造園の一部支援

(6) SPORTEX

9.10.10: 多摩ヒルズ 参加者124名(正・賛助会員、米空軍、空自)

(7) シンボル(ロゴ)・マークの募集及び記念盾の作成

マークを制定し記念盾を作成

(8) 正会員に対するネリス航空展示の研修幹旋

9.4.22-27: ネリスAFB(ラスベガス)

参加者: 30名

エアショーの研修について、航空機・宿泊所の確保、現地への案内等の幹旋を実施。参加者は空幕長主催のレセプションにも出席

(9) 米海軍空母インディペンデンス研修

9.6.7: 空母インディペンデンス艦上

参加者: 20名

参加者は米海軍の輸送機でインディペンデンスに着艦、艦内で研修等を実施した後再び輸送機で帰還

(10) 在日米空軍指揮官交代に伴う式典参加

5空軍司令官の交代式(横田)に鈴木会長が参加

第3. 一般運営事業の実施状況

(1) 会勢の維持・拡大(9年度末現在)

正会員 222名(205名)

個人賛助会員(OB) 11名(8名)

個人賛助会員(一般) 1名(0名)

法人賛助会員 36社(35社)

カッコ内は8年度末

(2) 名簿の作成・配布

9.5.1 本冊を発行、全会員に送付

9.11.1 追録版を発行、全会員に送付

(3) 会報「日米エアフォース友好協会だより」の発行

3回発行(2号: 9.5.20、3号: 9.10.20、

4号: 10.3.31)

(4) 一般広報

J A A G Aの理解を得るべくパンフレットを作成(4,000部)、空自各部隊等に配布

空自連合幹部会機関誌『翼』等に投稿

(5) 将来事業の検討

帰属問題について検討

(6) 会則の改正

第2回総会(9.6.27)において一部改正を承認、全会員に送付

(7) 総会・講演会及び懇親会

第2回総会 9.6.27 グランドヒル市ヶ谷

参加者: 53名(総会等)、75名(懇親会)

(8) 理事会・常務理事会

a. 理事会 4回(6.13、9.24、12.15、3.25)

b. 常務理事会 8回(4.11、5.20、7.28、8.19

10.20、11.17、1.23、2.20)

(9) 平成9年度収支決算の監査

10.4.13 監査

平成9年度決算報告書

(平成9. 4. 1 ~ 10. 3. 31)

(単位:円)

収 入		支 出	
前年度繰越金	1,311,242	支 出	
収 入		激 励 慰 問 費	0
年 会 費	3,604,420	共 同 訓 練 激 励 費	312,355
寄 付 金	0	研 修 助 成 費	144,342
利 息	9,413	式 典 行 事 参 加 費	380,965
雑 収 入	454	交 歓 親 善 行 事 費	769,900
計	3,614,287	総 会 費	228,538
		会 報 広 報 費	422,125
		名 簿 関 係 費	200,724
		会 則 関 係 費	8,820
		入 会 活 動 費	56,055
		支 部 設 立 準 備 費	0
		会 議 費	7,297
		事 務 費	91,196
		通 信 費	5,450
		旅 費	0
		雑 費	64,713
		予 備 費	294,000
		計	2,986,480
		翌年度繰越金	1,939,049
合 計	4,925,529	合 計	4,925,529

平成10年度事業計画書

1. 平成10年度の事業運営方針

- * 空自と在日米空軍の相互理解・友好親善に寄与できる事業及びこれらの軍事力の役割について広く各層に啓蒙するため必要な事業を実施する。
- * 募集広報を積極的に実施して会勢の拡大を図り、協会の基盤を強化する。
- * 協会の将来の方向について検討する。

2. 実施事業の概要

- (1) 日米共同訓練等における参加日米隊員の激励等
訪 問 先 : 訓練のため米空軍が展開する空自基地
時 期 : 日米共同訓練実施時
実施事項 : 訓練参加隊員の激励・慰問
参 加 者 : 正会員主体
- (2) 米空軍隊員の激励・慰問
訪 問 先 : 三沢、横田、嘉手納
時 期 : 国連平和維持活動等に在日米空軍部隊が派遣される場合

実施事項 : 激励・慰問

参 加 者 : 正会員主体

(3) 米軍基地等の研修

訪 問 先 : 嘉手納・那覇基地及び周辺史跡等

時 期 : 4 / 四半期

実施事項 : 指揮官の講演、装備品等研修、体験宿泊、懇談激励等

参 加 者 : 正会員及び賛助会員

(4) 米軍要人等の講演

講 師 : 米空軍、在日米国大使館、防衛庁等の要人

時 期 : 1 / 四半期 (総会実施時)、3 / 四半期

場 所 : 都内

参 加 者 : 正・賛助会員

(5) SPORTEX

時 期 : 2 ~ 3 / 四半期

場 所 : 多摩ヒルズ

参 加 者 : 正・賛助会員、空自、米空軍隊員

- (6) 米空軍交換幹部等支援
 実施事項：日本における交流活動等の支援
 対象者：空自各基地勤務の隊員等
- (7) 在日米空軍隊員の表彰
 対象基地：三沢、横田、嘉手納（空自については別途考慮）
 表彰人員：各基地1組
 時期：関連行事実施時
- (8) 指揮官交代行事等への参加
 対象基地：三沢、横田、嘉手納
 内容：指揮官交代行事等
 時期：都度
- (9) 日米安保等に関する広報活動
 実施事項：安全保障にかかわる講演の講師派遣
 対象：部外
 時期：都度（各基地からの要請による）
 場所：要請のあった基地又はその周辺
- (10) 空自・米空軍との意見交換
 対象基地：三沢、横田、嘉手納、空自各基地
 実施事項：面談、広報資料の提供、卓話等
 時期：都度
- (11) 会勢の維持・拡大
 実施事項：PR（面談、卓話、パンフレット配布等）及び入会案内
 時期：都度
- (12) 会員名簿の作成・配布
 発行回数：本冊1回、追録版1回
 時期：本冊（7月）、追録版（3月）
- (13) 会報『だより』の発行・配布
 発行回数：3回
 時期：7月、11月、3月
- (14) 一般広報
 実施事項：関係広報紙等への投稿、情報の提供等
 時期：都度
- (15) 協会の将来方向の検討
 検討事項：設立目的、事業の範囲、組織の安定等のための方策、基金の積立等
 実施者：関係理事等
 期限：12月末
- (16) 会則の改正
- (17) 総会及び懇親会
- (18) 理事会等

平成 10 年度 予算

科 目		10年度予算	備 考	
前年度繰越金		1,939,049		
収 入	年会費	3,545,000	正会員・個人賛助会員 239名	
	寄付金	0	法人賛助会員 36社（47口）	
	利息	5,000		
	雑収入	0		
	計	3,550,000		
支 出	友好親善事業	激励慰問費	0	
		共同訓練激励費	630,000	千歳・三沢・横田・府中・春日・築城・新田原
		研修助成費	245,000	嘉手納研修、
		式典行事参加費	150,000	日米隊員の表彰（横田・三沢・嘉手納）
		交歓親善行事費	920,000	講演会・スポーツ交流・米空軍交換幹部支援等
	一般運営事業	総会費	250,000	総会・懇親会助成
		会報広報費	780,000	3回発刊
		名簿関係費	95,000	1回発刊・追録版発刊
		会則関係費	10,000	改正分発刊
		入会活動費	65,000	
管理事務	支部設立準備費	0		
	会報費	40,000	理事会・常務理事会	
	事務費	105,000	事務用品	
	通信費	40,000	各種連絡	
	旅費	75,000	業務出張	
雑費	100,000			
予備費	300,000			
計	3,805,000			
翌年度繰越金		1,684,049		

JAAGA平成10年度役員


*印：新任

役職	氏名	備考	役職	氏名	備考	
会長	鈴木昭雄		理事長	*石川吉夫	前常務理事	
副会長	松村嘉夫 長谷川孝一		常務理事	利涉弘章 坂本祐信 *桑原武彦 *高橋伸治 *山本壽文 *稲垣文弘		
監事	小田康夫 *白井治夫	前常務理事		涉外	*大笠大 *橋井谷 *武健廣	
顧問	浦大茂 上孟 白弘 平春 竹野 山田 生田 森目 米川 *大杉村山	茂孟 泰元 五良 繁忠		会 員	石母治 菅原淳 *斎藤夫 工藤光 *村木世 *武智作	
		勲二 弘武 明和 *村二 *石宮 *松川 *増井 *若元江		広 報 報 会 報 報	*新田雅 *横谷仲 *村中博 *江藤兵 *荒蒔義 *横山俊	嘉浩 昌功 生博 部彦 夫
理事		前理事長 前常務理事 前常務理事 前常務理事 元常務理事 前常務理事		財 務		

OSW派遣留守家族に対する慰労

米軍は、湾岸戦争以後、同地域における平和維持活動の一つとして、イラク飛行禁止空域の警戒監視 (Operation Southern Watch) を行っているが、在日米軍も三沢に所在する第35航空団が、4月29日から7月16日まで及び7月15日から9月16日までの前、後段に分かれて、概ね各1コ飛行隊規模のF-16並びに人員、器材を派遣すると共に、沖縄に所在する第18航空団も5月21日から1ヶ月半の予定で、同じく1コ飛行隊規模のF-15並びに人員、器材を派遣している。

JAAGAは、任務の無事完遂を願うと共に、残された家族の心中を察して激励のメッセージを送ることとし、JAAGA会員を代表して、鈴木会長名で、第35航空団司令並びに第18航空団司令宛に右のような手紙を発送した。尚、派遣部隊の帰還をまって、別途慰労の意を表する予定である。



Japan-America Air Force Goodwill Association
P.O. Box 62 Akasaka Post Office
8-4-17 Akasaka Minatoku Tokyo, Japan 107

8 June 1998

Brig.Gen. Bruce A. Wright
Commander,
35th Fighter Wing
U.S. Air Force

Gen. (Ret) Akio Suzuki
President,
Japan-America
Air Force Goodwill
Association

Dear General Wright

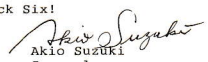
On behalf of the Japan-America Air Force Goodwill Association, I wish to renew our thanks again for the important role the 35th Fighter Wing continues to play to maintain peace and stability of this area.

We understand that the men and women of your wing are currently being deployed to the Middle East in support of Operation Southern Watch. We recognize OSW is a very important operation designed to prevent Iraq from any venturous attempt. We realize also the operation has a significant impact on the security of Japan.

While we understand the importance of the mission, we are particularly mindful of those family members left behind. We hope and pray that your deployed personnel will successfully complete their mission and return to their loved ones at the earliest possible date.

Please relay our sentiment, shared by a great majority of the Japanese citizens, to the family members left in Japan.

Our best wishes for continued success and prosperity of your wing.

Check Six!

Akio Suzuki
General,
JASDF retired

横田基地「友好パーク」開園式

横田基地は米空軍創立 50 周年記念行事の一環として基地内の太平洋空軍バンド (U. S. Air Force Asia and Pacific Band) の野外演奏場に隣接する場所に、基地と地域住民との友好を象徴する「友好パーク」を建設し、去る 5 月 24 日 (日) にその開園式が基地司令アラン・J・ブライディング大佐の主催で盛大に催された。当協会からは鈴木会長、長谷川副会長夫妻及び大橋、笠井各常務理事夫妻が招待されて参加した。当日は生憎の雨模様の天候であったが、多数の列席者の下、基地司令の式辞に続いて鈴木会長と福生横田友好協会の山下会長による記念碑の序幕、そして音楽演奏が行われた。音楽演奏は、活気溢れる若い女性約 20 人から成る群馬県の「上州馬群太鼓」の勇ましい太鼓で始まり、次いで大由鬼山氏によるリズムカルで力強い尺八の演奏、そして、太平洋空軍バンドによる快適なジャズのメロディーが流れた。特に圧巻はバンドと太鼓と尺八の合同演奏によるベニー・グッドマンの演奏で有名な「シング・シング・シング」であり、その見事なハーモニーと迫力は観客を魅了し拍手大喝采であった。

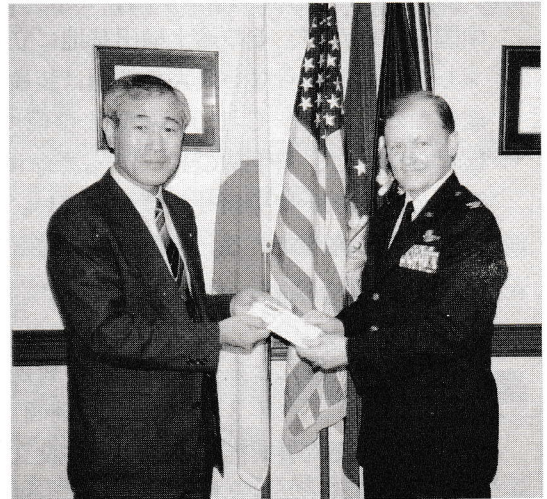
式典の第 2 部は F E N のラジオ実況中継として「太平洋空軍バンドによるグレン・ミラー・ショー」が行われ、本国から来た映画俳優で海兵隊のウィルフォード・ブルムリー氏によるナレーションや歌と共に懐かしいグレン・ミラーの名曲の数々が演奏され、誠に楽しい日曜日の午後のひとときであった。

式典においては空軍創立 75 周年にあたる 2022 年と創立 100 周年にあたる 2047 年に開けるタイム・カプセルに後世の人達のために現在の事柄を残す意味で各団体から種々の物を入れる行事も行われ、当協会からは「J A A G A だより」の創刊号から最新号迄とパンフレットをそれぞれのカプセルに鈴木会長から提供された。なお、「友好パーク」は未だ一部が未完成で、全部が完成するのは 10 月との事であった。

当協会は、この「友好パーク」の入り口に作られた一対の狛犬の像のための資金の一部を米空軍創立記念行事に対する支援事業の一環として横田基地に寄贈し、去る 4 月 14 日 (火) 大橋常務理事が横田基地を訪れ副司令のスコット大佐に手渡した。



At the opening ceremony of Yuko Park



Presenting donations to Yuko Park, left M. G. (Ret) Ohasi, right Col. Scott

第5空軍副司令官ラフォンテーヌ准将離日

第5空軍副司令官のラフォンテーヌ准将は約2年7ヶ月の日本での勤務を終えて、去る6月6日離日された。同准将は当協会が2年前に発足した当時は横田基地司令官として、また、昨年2月末からは第5空軍副司令官として当協会の活動に積極的な御支援を戴いた。同准将への謝礼と今後の益々の御活躍を祈って、去る6月2日にグランド・ヒル市ヶ谷において歓送会が当協会の鈴木会長、松村副会長各御夫妻と理事等20名（うち夫人4名）及び横田基地からホール5空軍司令官御夫妻、ブライディング基地司令官等8名の参加を得て行われた。会は石塚理事長の司会で、始めに鈴木会長から同准将に対する謝辞が述べられ、続いて当協会の盾が贈られ、また、准将の活動を支えられたジュディー夫人に会長夫人から感謝の花束が贈られた。これに、応えて同准将から当協会の活動に対する感謝と期待を込めたスピーチがあり、また、新副司令官として着任したローレンス、H. スティーブソン大佐（近日中に准将に

昇任予定）御夫妻の紹介も行われた。

当協会が発足して以来その活動を通じて米空軍との関係が益々緊密になりつつあるが、その実態が良く感じられるような親密で誠に和やかな楽しい雰囲気であった。なお、ラフォンテーヌ准将の新任務はフロリダ州ハールバールト基地に所在する特殊作戦軍（Air Force Special Operations Command）の副司令官であり、同准将御夫妻の益々の御発展と御健康を心からお祈りする次第である。



Farewell Party of B. Gen. & Mrs LaFountain

在日米空軍基地のトピックス

横 田

米空軍参謀総長 Gen. Michael Ryan 横田基地へ立ち寄り (Fuji Flyer 5 / 15)

5月11日の週、Gen. Ryanは平岡航空幕僚長の招待で日本を訪問し、引き続き韓国、中国を訪れたが、その途上横田基地に立ち寄った。Gen. Ryanは横田での訓辞で「米空軍がチャレンジしなければならない最大の課題は装備の近代化である。2012年には米空軍の航空機の平均年令が30歳となる。C-5, C-130は修理と整備に手一杯にならないよう装備、電子機材の近代化を図らなければならないし、嘉手納のF-15も寿命に近づいておりF-22に、F-16も古くなりすぎておりJoint Strike Fighterに更新せねばならない。今日の即応性と明日の近代化のバランスを保つことがわれわれの最大の挑戦である。私がいつも言っている様に、我々は一つのチーム、一つの軍隊、一つの家族である。」と述べた。

嘉 手 納

地元と嘉手納基地との親善協議会設立 (Shogun 4 / 17)

今年3月10日、沖縄商工会議所を中心とした地元の団体と嘉手納基地との間で「沖縄市経済文化交流事業推進協議会」が設立された。市は沖縄の伝統的行事に基地の人達を、米軍はバーベキューやスポーツなど様々な催しに市民を招待し交流を深める計画である。昨今の厳しい政治状況の中で、公の協議会が設立されたことは画期的なことであり那覇防衛施設局も喜んでいる。ベイカー准将も連絡調整官として名を連ね推進している。

航空自衛隊の9年度日米共同訓練実施状況

…実施規模は例年並・着実な成果…

…J A A G A も7基地で激励・慰問…

航空自衛隊と米軍による平成9年度の日米共同訓練実施状況は、実動訓練を4回、小規模日米共同訓練を48回実施した他、統合幕僚会議の計画による日米共同統合指揮所演習に参加し、それぞれ着実に成果を上げた。日米共同訓練は戦技能力の向上を図る上でも、また、我が国有事における日米共同対処行動を円滑に行うためにも欠くことのできない訓練として定着している。また、これらの共同訓練を通じ日米部隊間の信頼感の醸成及び一層の友好の促進が図られている。なお、J A A G A もその趣旨に沿い、友好親善事業の一環として延7基地に代表を送り、共同訓練実施中の日米の参加隊員を激励・慰問した。

1 訓練別実施概要

*第1回(9年7月)防空戦闘訓練, 戦闘機戦闘訓練、救難訓練

参加航空機: 空自延約170機、米軍延約110機
使用基地(空自): 千歳、三沢、小松、那覇、硫黄島、入間、府中

J A A G A: 激励・慰問: 那覇基地(松村副会長)

*第2回(9年10月、航空総隊総合演習の際に実施)防空戦闘訓練

参加航空機: 空自延約170機、米軍延約20機
使用基地(空自): 千歳、三沢

*第3回(9年11月)防空戦闘訓練, 戦闘機戦闘訓練、再発進準備訓練

参加航空機: 空自延約510機、米軍延約650機
使用基地(空自): 千歳、三沢、襟裳

J A A G A 激励・慰問: 千歳(朝倉会員)、三沢(近藤会員)

*第4回(10年1月)防空戦闘訓練, 戦闘機戦闘訓練、再発進準備訓練

参加航空機: 空自延約390機、米軍延約300機
使用基地(空自): 築城、新田原、春日

J A A G A 激励・慰問: 春日(中野会員)、築城(橋本会員)、新田原(江藤理事)

2 小規模日米共同訓練地域別実施回数

北空(25回)、中空(0回)、西空(13回)、南混(10回)

3 日米共同統合指揮所演習(10年2月)への参加

計画: 統合幕僚会議

使用基地(空自): 檜町、府中

J A A G A 激励・慰問: 府中(長谷川副会長)

4 主な成果

- (1) 防空戦闘訓練では、組織的な戦闘要領を演練し、共同運用能力の向上が図れた。
- (2) 戦闘機戦闘訓練では、米軍の保有する多機種間の戦闘機との異機種間の訓練を実施し操縦者の戦技能力の向上を図り、貴重な教訓を得た。
- (3) 救難訓練では、搜索機等を使用して遭難者の搜索・救助要領等を演練した。
- (4) 再発進準備訓練では、航空機の点検等の再発進準備要領を演練した。

日米幹部の相互派遣

航空自衛隊は、米空軍の軍事思想、技術、戦法等を修得し、航空自衛隊の能力向上に資するとともに、日米相互の友好と信頼のきずなを強化し、日米防衛協力の円滑化を図るため、昭和 51 年度から米空軍の軍人を教官として招致するとともに、航空自衛官を教育訓練、研究開発等を担当する米空軍の部隊等に派遣している。

これらの事業によって、日米双方の幹部が実務を通じて相手国の部隊事情を学ぶとともに、隊員との間に緊密な人間関係を構築してきた。そして、さらに日米相互の意思疎通を図るとともに、日米防衛協力の一端を担うことにも寄与できることから、今後とも事業の充実発展が望まれ、JAAGA としても何らかのお手伝いができればと考えている。

「だより」では、これらの事業内容や参加している人々の所感等を広く知っていただくために、本号以降、継続的に紹介記事を掲載することとした。






本号では、全般概要として米空軍教官の受入及び航空自衛官の派遣について触れ、併せて第 5 術科学校(小牧)の教官として活躍中のオデガード少佐の所感文を紹介する。そして次号からは毎号 1～2 名の教官の所感等を紹介していく予定である。

○全般概要

〔米空軍教官の受入〕

航空自衛隊の基本教育の課程学生等に対して、米空軍の組織、運用、戦技戦法、通信電子等各種技術、米国軍事事情及び軍事英語等の教育を実施するために、米空軍将校を教官として受け入れている。

昭和 51 年度以降逐次部門を拡大し、現在は 7 部門について継続実施している。教官の任期は約 2 年であり、これまで延べ 45 名を受け入れている。現在の状況は次のとおりである。

	部門	開始年度	受入部隊等	主要教育事項	現員階級氏名
1	教育	S 51	幹部学校 (目黒)	米国軍事事情等	中佐 アルバート・K・ウエハラ Albert K. Uehara (10 年 9 月着任予定)
2	飛行	S 55	第 5 航空団 (新田原)	米空軍における最新の戦技戦法等及び戦闘機部隊の運用等	大尉 アーサー・W・アンダーソン Arthur W. Anderson 
3	研究 開発	S 55	飛行開発実験団(岐阜)	米軍における最新の航空機等の試験計画技法並びにデータ収集及び評価方法等	少佐 マイケル・J・クリブス Michael J. Cribbs 
4	整備	S 56	第 1 術科学校 (浜松)	米空軍における最新の整備運用思想、整備技術及び整備管理技法等	大尉 スチュワート・A・ラム Stuart A. Lum 
5	通信 電子	S 59	第 4 術科学校 (熊谷)	米空軍における最新の通信運用思想及び通信技術等	大尉 トッド・M・ササキ Todd M. Sasaki 
6	要撃 管制	H 1	第 5 術科学校 (小牧)	米空軍における防空組織及び兵器管制の概要等	少佐 アンソニー・J・オデガード Anthony J. Odegard 
7	航空 医学	H 10	航空医学実験隊(立川)	米空軍における最新の航空医学、航空生理学に関する事項	中佐 アンドルー・トン Andrew Tong (10 年 8 月着任予定)

〔航空自衛官の派遣〕

米空軍の軍事思想、技術、運用ノウハウ等を修得するとともに、米軍事情に通じた人材を養成するため、幹部自衛官を調査研究のための留学として、米空軍部隊等に派遣している。

昭和 51 年度以降逐次部門を拡大し、現在は 7 部門について継続実施している。要員の派遣期間は約 2 ～2.5 年であり、これまで延べ 50 名を派遣している。現在の状況は次のとおりである。

	部 門	開始年度	派 遣 先	現 員 階 級 氏 名
1	教 育	S 51	米空軍士官学校 (コロラド州コロラドスプリングス)	3 佐 深 澤 英 一 郎
2	飛 行	S 54	第 56 戦闘航空団 (アリゾナ州ルーク基地)	1 尉 今 城 弘 治
3	研究開発	S 54	マテリアルコマンド (オハイオ州ライトパターソン基地)	1 尉 鈴 内 克 律
4	整 備	S 56	第 82 教育団 (テキサス州シェパード基地)	1 尉 片 岡 智
5	通信電子	S 58	太平洋空軍司令部 (ハワイ州ヒッカム基地)	3 佐 村 上 和 彦
6	要撃管制	H 1	第 325 教育隊 (フロリダ州ティンドル基地)	1 尉 齋 藤 拓 也
7	航空医学	H 9	アームストロング研究所 (テキサス州ブルックス基地)	3 佐 大竹野 伸 二

航空自衛隊第 5 術科学校における生活について

—— 第 5 術科学校受け入れ教官オデガード少佐の所感文（本人が自ら日本語で書いたもの）——

1 勤務について

(1) 私の第 1 の任務は自衛隊と米軍の友好を促進することです。

日々、要撃管制幹部や空曹学生に米空軍に関するテーマを教え、その中から私も自衛隊について見識を拡げていきます。また、その他の任務としては米国へ留学を予定している学生に英会話や軍事英語、米国の文化などについて教育しています。

ア 私は毎日、同僚要撃管制教官と一緒に学生を教えたり、米軍に関連する質問に答えたりして自衛隊員との友好を促進しています。そして、私と同じように米国フロリダ州のティンドル基地に勤務する航空自衛隊の幹部もおなじ活動をしていると思います。それにできるだけ学校の方と一緒に文化的歴史的な場所をよく見物します。キャンプやバス観光ツアーなどもしました。教官として各要撃管制官のクラスに対する英会話を月に 6 時間程度と米空軍の運用などに関するテーマを 12 時間教えています。授業のテーマは、「米空軍の組織」、「米空軍の教義」、「AWACS」、「攻撃の戦術」及び「戦術管制システム」などです。

イ 私は自分の任務を遂行する上で困ったことはあまりありません。第 5 術科学校の皆様にはいつも協力していただき、お世話になっています。しかしながら、一つだけ問題があります。それは私が自分の授業の資料とするための最新の情報を入手することが困難なことです。時々、学生がインターネット

トや雑誌で私の授業の情報よりもっと新しいのを持っていることがあります。今、熊谷基地の米空軍の Sasaki 大尉は7名の教官全員がインターネットへアクセスできるようにすることを検討中です。

2 生活について

(1) 家族の構成

妻 Maniji 趣味は料理です。

長男 Mark 23歳、今ミシガン州に住んでいます。

長女 Carol 19歳、一緒に住んでいます。今年、
名古屋国際学園を卒業しました。

次女 Linda 13歳



(2) 生活環境

私の住宅は名古屋市の守山区のアパートです。そのアパートは国道19号に面しており、沢山の倉庫や工場の真ん中にあるので大変騒々しい環境です。しかしながら、子供の通学のためにこのアパートを選びました。そのアパートはJR線の新守山駅と名古屋地下鉄や名鉄の大曾根駅と名鉄小牧線の上飯田駅の中間に位置しています。また、アパートの隣にはバス停もあり、非常に交通の便は良いです。普通は自分の車で通勤しますが、宴会がある時などは電車を利用しています。次女は名古屋国際学園で勉強しています。彼女は毎日、自転車と電車と学校のバスを利用して通学します。その学校は大変良い学校です。

(3) 日常生活で困ったことはほとんどありませんが、一つ大変な問題がありました。

平成8年6月に東京から名古屋に家を探しに来ました。その時二軒のきれいな家を候補に選びました。不動産屋さんも、その時は賛成しました。しかし、東京に戻った時に電話で両方の大家さんから「外国人には貸せない」ということを伝えられました。その後も三回同じ経験をしました。初めのうちは、今住んでいる場所はあまり好きではありませんでしたが、「住めば都」です。騒々しいところではありますが大家さんや隣人はみな親切です。

3 趣味又は娯楽について

趣味は読書、旅行、ジョギング及びクラシック音楽鑑賞です。職場の方と一緒にいろいろな所へ観光にいきました。場所は下呂温泉、リトルワールド、明治村、京都、奈良、九頭竜キャンプ場などです。時々、一人で愛知県文化芸術センターでコンサートを鑑賞したりもします。

4 今後の予定や抱負について

今年の7月にアメリカへ異動する予定です。次の仕事は米空軍の要撃管制官の学校の教官です。

5 在任間で特に印象に残ったこと

航空自衛隊は非常に協力的な部隊だと思います。また自衛隊の皆様はプロフェッショナルであると感じました。私は今まで六年間、日本にいます。その間、北海道から沖縄まで沢山の部隊を見学しました。全ての部隊はいつもきれいで規律厳正で能率的でした。日本人はいつも礼儀正しくて、親切です。生活に関わる問題があったら、大家さんか付近の方がいつも手伝ってくれます。大家さんは 大変親切な人です。

6 JAAGAの支援、協力について

JAAGAからの支援については感謝しています。教官としての仕事に必要な教材等にこの支援が活用できればいいと思います。

USAF MAJ
ANTHONY J. ODEGARD

在日米軍部隊の紹介

(その2) 第5空軍司令部

今回は第5空軍の編成、組織、機能等についての紹介である。

第5空軍は司令官の Jon B. Hall Jr. 中將、副司令官の Lawrence H. Stevenson 准將以下将兵約 18,000 名（家族約 21,000 名）が日本に駐在している。なお既に紹介したとおり、第5空軍司令官は在日米軍司令官を兼ねている。

1 沿革

第5空軍は第2次大戦直前に米陸軍航空隊フィリピン方面軍の隷下部隊として発足し、終戦に至るまでマッカーサー将軍の指揮する作戦の航空支援を行った。初代司令官は Henry Clagett 准將であった。

占領軍の一部として 1945 年 9 月日本に進駐し、司令部をジョンソン基地（入間基地）に置いた。

1950 年 6 月に朝鮮戦争が勃発すると第5空軍は直ちに参戦して首都ソウル防空の任務に当たり、1953 年の停戦迄の間に、約 600,000 回の出撃を行って、敵機 953 機を撃墜し、38 人の戦闘機パイロットのエースを誕生させた。

司令部は 1957 年 7 月に在日米軍発足と共に府中基地に移転し、その後、米軍基地集中移転計画により、横田基地に移転して現在に至っている。

2 任務及び編成

第5空軍は第7空軍（司令部：韓国オーサン基地）、第11空軍（司令部：アラスカ州エルメンドルフ基地）、第13空軍（司令部：グアム、アンダーソン基地）と共に太平洋空軍（司令部：ハワイ州ヒッカム基地）の一翼を担う有力部隊であり、その任務は「日本防衛に対する支援及び航空作戦の準備と実施によるアジア地域の安定の強化」である。

司令部は 1990 年迄は人員約 250 名であったが、1986 年 9 月、韓国米空軍が第7空軍として第5空軍からの独立とその後の米軍縮小計画により、現在は人員勢力 126 名であり、作戦、装備、情報の 3 部と施設、警備、法務、安全の 4 班から成っている。

3 隷下部隊

(1) 第374輸送航空団

横田基地に所在し、人員約 5,000 名で、C-130 型輸送機等により、主として戦術空輸作戦を担当し、団司令、Alan J. Briding 大佐は横田基地司令を兼ねている。

(2) 第35戦闘航空団

三沢基地に所在し、人員約 4,400 名で、F-16 型戦闘機により主として戦術航空作戦を担

当し、団司令、Bruce A. Wright 准將は三沢基地司令を兼ねている。

(3) 第18航空団

嘉手納基地に所在し、人員約 8,200 名で、F-15 型戦闘機、KC-135 型空中給油機、E-3 型空中管制機、HH-60 型ヘリコプター等により多種多様な任務を担当し、「米空軍最大の航空団」と言われている。団司令、John R. Baker 准將は嘉手納基地司令を兼ねている。

4 主要課題

第5空軍が任務遂行のために現在取り組んでいる主要課題は次のとおりである。

(1) 勤務及び生活環境の改善

隊員及び家族が快適に勤務に精励でき、生活を楽しむ環境を整える事は極めて大切であるとの認識の下に、このための資金の確保に努力する必要がある。

(2) 地域住民との友好関係の確立

基地の隊員と周辺地域の住民とは良好な関係が保たれており、これは過去の努力の蓄積の賜物であるが、部隊は各種催物や地域の発展計画に積極的に協力して、地域との友好信頼関係を更に強固なものにする事が大切である。

(3) 空自との運用共通性

空自との運用共通性の維持は極めて重要である。空自は最近 F-15 の能力向上を図っているので、特にレーダーと空対空ミサイルの形態を米空軍と同じに保つ事に留意する必要がある。また、空自の AWACS の運用についても緊密な連携を保ち、運用共通性の確保に努める事が大切である。

(4) 朝鮮半島有事における日本政府の支援

前太平洋軍司令官は「米軍は日本における作戦において韓国の支援を得なくても勝利を収める事ができるが、韓国における作戦においては日本の支援無しでは勝利を収める事はできない」と述べたが、朝鮮半島有事の事態における日本政府の支援は誠に重要である。

在日米空軍基地の主要公開行事予定

在日米軍各基地の今年度の主要な公開行事は次のとおりです。御都合のつく方は奮ってご参加下さい。

○ 三沢基地

友好 Day 7月4日 基地内で催物 (Beach)

航空祭 9月13日 基地開放

○ 横田基地

日米親善友好祭 7月25日～26日 基地開放

○ 嘉手納基地

America's Festival 7月2日～5日 基地開放

安全保障に関する日米関係

防衛協力のための指針や物品役務相互提供などに関する論議がしばしば行われる昨今、事務局では日米関係の現状や展望に関するより良い理解の

ため、主として基地周辺の皆様を対象とする講演、懇談会等を企画できるよう準備中です。ご要望あれば御一報下さい。 J A A G A事務局

JAAGA 会員の皆様へ

冷戦終結後の新たな国際情勢の中で「新ガイドライン」が策定され、まさに日米安保新時代を迎えて、JAAGAの活動は一層重要性を増しております。このときに当たり、航空自衛隊OBの存在意義を示すためにも、一人一人のささやかな奉仕の意志を集合し、航空自衛隊の将来の精強化と我が国防衛の基盤たる日米両エアフォースの相互理解に寄与して、現役諸君のご苦勞をしっかりと後ろ支えして行かねばなりません。また、社会一般に対して在日米空軍の重要性を啓蒙するためには、航空自衛隊OB以外の協力者を得ることも大切です。

発足2年目を迎えたJAAGAは、現在、その活動を一層活発化するために個人会員の会勢拡大を図っており、会員の皆様方の勧誘、推薦、情報提供に関する御協力、御支援を是非とも宜しく御願ひ致します。

なお、個人会員については次の通りで、推薦若しくは情報提供を頂いた方には会員担当から連絡させていただきます。

正 会 員 : 航空自衛隊OBで入会した者 (年会費5千円)

個人賛助会員 : 航空自衛隊OB以外の者で、正会員3名の推薦により、理事会の審査を経て入会した者 (年会費1万円、当面は東京地区を主対象に募集し、遂次全国にその輪を拡げていくことにしています。)

【連絡先】

「郵便」 〒107-0052 東京都港区赤坂8-4-17 赤坂郵便局私書箱第62号

日米エアフォース友好協会 会員担当行

「FAX」 03-3780-2945 石母田 治 (日本航空電子工業)

「電話」 03-3780-2961 同 上

03-5323-5135 村 木 裕 世 (横 河 電 機)

03-3456-7664 武 智 哲 作 (日 本 電 気)

03-3245-6611 荒 蒔 義 彦 (新 明 和 工 業)